「この人 49」

伊地知寛 78歳 神奈川県

編集部 俳句を始められたのは？

伊地知 六十五歳の時、市のカルチャーセンターで始めました。十年くらい経った頃に壁に突き当たりましたが、「滑稽俳句協会報」を拝見しまして、目からウロコ。即日、入会手続きをしました。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

伊地知 庶民生活のうたの中に、微笑みを感じるところですね。会報誌の佳句の中に、自分では思いもつかなかった発想のひらめきを見いだせるのもいいですね。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

伊地知 絵も歌も、真面目くさっていては進歩がありません。和歌は人生の苦しみ悲しみを詠い、俳句は生活の温か味を詠むのが本筋と思います。滑稽は、俳句に生活の実感を与えてくれますね。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

伊地知 とにかく何でもメモを取っておいて、捨てないでおくことです。私は、川柳をみたり、母の故郷の鹿児島の、薩摩狂句をみたりしています。駄洒落に陥らないように、品位を保つことも大事ですね。

【代表句】

千円で走る高速春一番
諍ひは冷さうめんの茹で加減
年金の妻の優雅な夏休み
生身魂ジョギングカラオケ五七五
平均余命と辻褄合はせ日記買ふ

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。